



## 2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年4月14日

上場会社名 マテリアルグループ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 156A URL <https://materialgroup.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 青崎 曹  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 吉田 和樹 TEL 03 (6869) 1100  
 半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	4,399	45.2	707	82.1	673	73.7	395	66.0
2025年8月期中間期	3,029	13.5	388	△10.1	387	△6.1	238	△13.4

(注) 包括利益 2026年8月期中間期 399百万円 (67.3%) 2025年8月期中間期 238百万円 (△13.4%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期中間期	41.26	40.74
2025年8月期中間期	24.42	24.19

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期中間期	6,036	2,192	35.4
2025年8月期	3,896	2,212	55.4

(参考) 自己資本 2026年8月期中間期 2,134百万円 2025年8月期 2,157百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	26.00	26.00
2026年8月期	—	0.00	—	—	—
2026年8月期（予想）	—	—	—	26.10	26.10

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,964	42.6	1,150	38.2	1,037	37.6	612	30.5	63.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) 株式会社マテリアルリンクス、株式会社トレプロ、除外 1社 (社名) -

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(連結範囲の重要な変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期中間期	9,877,197株	2025年8月期	9,877,197株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	434,305株	2025年8月期	245,009株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年8月期中間期	9,596,589株	2025年8月期中間期	9,764,815株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予測のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明資料の入手方法)

決算説明資料はT D n e tで同日開示しております。また、当社ウェブサイトにて同日掲載しております。

(決算説明会内容の入手方法)

2026年4月22日に決算説明会をWEB配信にて開催し、説明会動画を後日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(連結範囲の重要な変更に関する注記)	10
(中間連結貸借対照表に関する注記)	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループは、「Switch to Red.」(個性に情熱を灯し、価値観や常識を変え、世界を熱くする。)をビジョンとし、また2026年8月期～2028年8月期を対象とした中期経営計画では、中長期のビジョンとして「PR発想をコアとしてマーケティング業界の第4極になる」を掲げ、マーケティングコミュニケーション(注1)領域においてPR発想/ストーリーテリング(注2)をコアとし顧客のブランドの成長を支援する事業を行っております。

当中間連結会計期間につきましては、当社グループでは引き続き積極的な人材採用、案件管理体制の強化を行い、各事業の規模拡大を図りました。また前連結会計年度にはM&Aによって株式会社Bridgeがグループ参画し、“明日、選ばれるための戦略”であるPRと“今、選ばれるための戦略”であるデジタルマーケティングの融合を目指し、PRコンサルティング事業とデジタルマーケティング事業の連携をより深めております。加えて育成事業であるPRプラットフォーム事業では、TikTokを活用した採用支援を行う株式会社トレプロを2025年9月に100%子会社化し、同事業をグループ全体の進化の1つの軸とするべく注力しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の当社グループの経営成績は、売上高4,399,691千円(前年同期比45.2%増)、営業利益707,706千円(前年同期比82.1%増)、経常利益673,645千円(前年同期比73.7%増)、親会社株主に帰属する中間純利益395,960千円(前年同期比66.0%増)となっております。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### (PRコンサルティング事業)

同事業に属する株式会社マテリアルについて、当中間連結会計期間は、PRパーソンの採用も順調に進捗するとともに、代理店を通じた取引、直接販売取引ともに堅調に推移し、既存顧客からのリピート発注に加え、様々な業種の新規顧客の獲得が進みました。また、同事業に属する株式会社ルームズについて、当中間連結会計期間では引き続き新規顧客の獲得に注力しました。加えて、キャンドルウィック株式会社においても、既存顧客からの案件の継続受注及び新規顧客の獲得に注力しました。

以上の結果、セグメント売上高は3,139,800千円(前年同期比21.3%増)、セグメント利益は751,229千円(前年同期比36.3%増)となりました。

#### (デジタルマーケティング事業)

当中間連結会計期間では、前連結会計年度にM&Aにより子会社化した株式会社Bridgeとの連携を深めながら、デジタルを起点にしたコンサルティング業務の提供、PRコンサルティング事業で培ったPR発想/ストーリーテリングを活かしたデジタル広告運用支援及びクリエイティブ制作業務の提供に注力することで、既存顧客との取引の拡大、新規顧客の獲得が進みました。

以上の結果、セグメント売上高は726,769千円(前年同期比110.7%増)、セグメント利益は142,190千円(前年同期比57.3%増)となりました。

#### (PRプラットフォーム事業)

当中間連結会計期間では、TikTokを活用した採用支援を行う株式会社トレプロ(2025年9月30日付でM&Aによって100%子会社化)、TikTok Shop等のソーシャルコマース領域を支援する株式会社マテリアルリンクス(前連結会計年度に事業を開始)を中心に、PRプラットフォーム事業をグループ全体の進化の1つの軸とすべく、顧客獲得に積極的に注力しました。なお前連結会計年度において非連結子会社であった株式会社マテリアルリンクスは、重要性が増したため当中間連結会計期間に連結子会社化しました。

以上の結果、セグメント売上高は593,114千円(前年同期比341.0%増)、セグメント利益は119,566千円(前年同期比370.0%増)となりました。

- (注) 1. マーケティングコミュニケーションとは、ブランド・商品・サービスとそのステークホルダーが双方にコミュニケーションを取りながら行う販売促進等の活動を指し、その手法には、広告やプロモーション、PR、デジタルマーケティング等が含まれております。
2. PRとは、Public Relations(パブリックリレーションズ)の略であり、企業や団体がその組織を取り巻く社会・人々との良好な関係を構築するための活動を指しております。
- またPR発想/ストーリーテリングとは、トライブ(共通の価値観や興味を持つ人々が集まってできるコミュニティ)から逆算した情報流通設計により、より多くの人と深い関係性を構築しやすい発想術と定義しております。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

## (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ571,854千円増加し3,026,756千円となりました。主な要因は、売掛金が444,910千円、前払費用が82,249千円、現金及び預金が47,860千円増加したこと等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,567,864千円増加し、3,009,447千円となりました。主な要因は、株式会社トレプロの株式取得によりおれんが980,235千円、繰延税金資産が577,001千円増加したこと等によるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ2,139,718千円増加し、6,036,204千円となりました。

## (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ825,833千円増加し、2,389,161千円となりました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金320,792千円、短期借入金が214,502千円、支払手形及び買掛金が104,467千円、未払法人税等が102,134千円増加したこと等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,333,390千円増加し、1,454,148千円となりました。主な要因は、長期借入金が1,325,574千円増加したこと等によるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,159,274千円増加し、3,843,310千円となりました。

## (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ19,555千円減少し、2,192,894千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が395,960千円、自己株式の処分により80,612千円増加した一方で、株主配当金の支払が250,436千円、自己株式の取得が245,931千円あったこと等によるものです。

## (3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末より47,860千円増加し、1,309,124千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、341,038千円となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益の計上674,075千円等があった一方で、売上債権の増加320,097千円等があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,655,305千円となりました。主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,633,598千円等があったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、1,361,396千円となりました。主な要因は、長期借入による収入1,890,000千円等があった一方で、配当金の支払額250,037千円、自己株式の取得による支出248,636千円、長期借入金の返済による支出243,634千円があったことによるものであります。

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間会計期間は、各セグメントにおいて堅調に推移し、業績予想に対して売上高は190,711千円、粗利は46,097千円増加となりました。加えて、人員の生産性向上、効率的な広告宣伝費の活用によって営業利益は、業績予想に対して185,065千円の増加となりました。結果として、経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益は、業績予想に対してそれぞれ174,395千円、106,652千円の増加となりました。

しかしながら、下期に向けてAI関連の積極的な投資を予定しており、また生産性向上を背景にした人員へのインセンティブ支給を見込むことも踏まえ、通期の業績予想につきましては現時点では変更せず、2025年10月14日付け「2025年8月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表した通期の連結業績予想を据え置くことといたします。

今後の業績動向に応じて通期業績予想に修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

2025年10月14日付けの「2025年8月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表しました、2026年8月期第2四半期(中間期)の業績予想との差異は以下のとおりです。

2026年8月期第2四半期(中間期)(2025年9月1日～2026年2月28日)業績予想値と実績値の差異

(単位 千円)

	売上高	粗利 (注1)	営業利益	のれん償却 前営業利益 (注2)	経常利益	親会社株主 に帰属する 中間純利益	1株当 り中間純 利益
前回発表予想 (A)	4,208,980	2,954,360	522,641	603,744	499,249	289,307	30.03
第2四半期(中 間期)実績 (B)	4,399,691	3,000,457	707,706	790,775	673,645	395,960	41.26
増減額(B-A)	190,711	46,097	185,065	187,031	174,395	106,652	
増減率(%)	4.5%	1.6%	35.4%	31.0%	34.9%	36.9%	
(ご参考) 前期第2四半期 実績 (2025年8月期 第2四半期)	3,029,413	2,103,968	388,642	415,590 (注3)	387,823	238,462	24.42

(注) 1. 案件から得られる売上高から、案件進行に係る外注費を差し引いた金額であり、社内リソースによって獲得した利益の金額を示しております。

2. のれん償却前営業利益は、営業利益にのれん償却費を加えた数値となります。

3. 2025年10月14日付けの「2025年8月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し 2026年8月期第2四半期(累計)の業績予想」において、2025年8月期第2四半期(累計)ののれん償却前営業利益の実績を458,164千円と開示しておりましたが、正しくは415,590千円となります。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,261,264	1,309,124
電子記録債権	21,971	-
売掛金	991,517	1,436,428
仕掛品	38,763	58,317
前払費用	102,396	184,645
その他	41,759	42,590
貸倒引当金	△2,770	△4,350
流動資産合計	2,454,902	3,026,756
固定資産		
有形固定資産	116,229	127,933
無形固定資産		
のれん	753,553	1,733,788
その他	50,572	49,243
無形固定資産合計	804,125	1,783,032
投資その他の資産		
敷金及び保証金	247,131	244,060
繰延税金資産	221,121	798,123
その他	53,575	56,897
貸倒引当金	△600	△600
投資その他の資産合計	521,228	1,098,481
固定資産合計	1,441,583	3,009,447
資産合計	3,896,486	6,036,204
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	607,626	712,094
短期借入金	115,000	329,502
1年内返済予定の長期借入金	64,748	385,540
未払金	407,424	460,553
未払法人税等	183,852	285,987
前受金	33,142	59,758
賞与引当金	1,833	2,354
その他	149,650	153,371
流動負債合計	1,563,278	2,389,161
固定負債		
長期借入金	48,266	1,373,840
その他	72,491	80,308
固定負債合計	120,757	1,454,148
負債合計	1,684,035	3,843,310
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	117,140	117,140
資本剰余金	312,447	307,218
利益剰余金	1,903,950	2,051,888
自己株式	△176,465	△341,784
株主資本合計	2,157,072	2,134,462
新株予約権	1,150	1,136
非支配株主持分	54,226	57,296
純資産合計	2,212,450	2,192,894
負債純資産合計	3,896,486	6,036,204

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	3,029,413	4,399,691
売上原価	1,171,040	1,756,522
売上総利益	1,858,373	2,643,169
販売費及び一般管理費	1,469,730	1,935,463
営業利益	388,642	707,706
営業外収益		
受取利息	516	1,470
受取手数料	671	1,234
投資有価証券売却益	1,106	—
ポイント還元収入	—	989
その他	2,043	602
営業外収益合計	4,337	4,296
営業外費用		
支払利息	1,646	11,210
子会社株式取得関連費用	—	7,887
支払手数料	—	13,288
その他	3,509	5,971
営業外費用合計	5,156	38,357
経常利益	387,823	673,645
特別利益		
固定資産売却益	—	425
その他	28	4
特別利益合計	28	430
特別損失		
固定資産除却損	49	—
特別損失合計	49	—
税金等調整前中間純利益	387,802	674,075
法人税等	149,339	275,045
中間純利益	238,462	399,030
非支配株主に帰属する中間純利益	—	3,069
親会社株主に帰属する中間純利益	238,462	395,960

## (中間連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
中間純利益	238,462	399,030
中間包括利益	238,462	399,030
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	238,462	395,960
非支配株主に係る中間包括利益	—	3,069

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	387,802	674,075
減価償却費	31,648	32,417
のれん償却額	26,948	83,069
株式報酬費用	10,924	28,299
受取利息	△516	△1,470
支払利息	1,646	11,210
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△425
固定資産除却損	49	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,106	—
新株予約権戻入益	△28	△4
売上債権の増減額(△は増加)	△90,598	△320,097
仕入債務の増減額(△は減少)	71,999	88,873
未払金の増減額(△は減少)	△81,601	△18,900
前受金の増減額(△は減少)	2,312	11,280
その他	△49,256	△23,183
小計	310,224	565,143
利息の受取額	516	1,470
利息の支払額	△1,616	△11,210
法人税等の還付額	2	7,328
法人税等の支払額	△91,956	△221,694
営業活動によるキャッシュ・フロー	217,170	341,038
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,928	△5,140
無形固定資産の取得による支出	△10,412	△5,753
投資有価証券の売却による収入	6,131	—
敷金及び保証金の差入による支出	△2,540	△1,433
敷金及び保証金の返還による収入	432	267
出資金の回収による収入	—	10
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,633,598
その他	△1,457	△9,657
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,774	△1,655,305
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	214,502
長期借入れによる収入	—	1,890,000
長期借入金の返済による支出	△188,461	△243,634
配当金の支払額	△243,718	△250,037
自己株式の取得による支出	—	△248,636
自己株式の処分による収入	1,218	4,872
その他	—	△5,670
財務活動によるキャッシュ・フロー	△430,960	1,361,396
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△226,564	47,128
現金及び現金同等物の期首残高	1,122,606	1,261,264
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	731
現金及び現金同等物の中間期末残高	896,041	1,309,124

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PRコンサル テイング事業	デジタルマー ケテイング事 業	PRプラットフ ォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,578,616	333,224	117,572	3,029,413	—	3,029,413
セグメント間の内部売 上高又は振替高	10,100	11,656	16,932	38,688	△38,688	—
計	2,588,716	344,880	134,504	3,068,102	△38,688	3,029,413
セグメント利益	551,344	90,391	25,437	667,173	△278,531	388,642

(注) 1. セグメント利益の調整額△278,531千円には、セグメント間取引消去△3,518千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△275,012千円が含まれております。全社費用の主なものは報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PRコンサル テイング事業	デジタルマー ケティング事 業	PRプラットフ ォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,123,277	701,462	574,951	4,399,691	—	4,399,691
セグメント間の内部売 上高又は振替高	16,523	25,306	18,162	59,992	△59,992	—
計	3,139,800	726,769	593,114	4,459,684	△59,992	4,399,691
セグメント利益	751,229	142,190	119,566	1,012,987	△305,281	707,706

(注) 1. セグメント利益の調整額△305,281千円には、セグメント間取引消去1,890千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△307,171千円が含まれております。全社費用の主なものは報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「PRプラットフォーム事業」セグメントにおいて、2025年9月30日付で株式会社トレプロの株式を取得したため連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は1,063,305千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2025年11月19日開催の取締役会決議により、当中間連結会計期間において、自己株式300,000株の取得を行いました。この結果、当中間連結会計期間において自己株式が245,931千円増加しております。

(自己株式の処分)

当社は、当中間連結会計期間におけるストック・オプションの行使による自己株式の処分に伴い、資本剰余金が1,879千円、自己株式が6,762千円減少しております。

また当社は、2025年11月27日開催の取締役会決議により、2025年12月23日付で当社の取締役及び当社子会社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分を行いました。この結果、当中間連結会計期間において、自己株式が73,850千円減少しております。

さらに、自己株式処分に伴い、自己株式処分差損3,349千円を計上し、資本剰余金が同額減少しております。

上記の結果、当中間連結会計期間末において、資本剰余金が307,218千円、自己株式が341,784千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結範囲の重要な変更に関する注記)

当中間連結会計期間より、前連結会計年度において非連結子会社であった株式会社マテリアルリンクスは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

また、当中間連結会計期間において、株式会社トレプロの全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(中間連結貸借対照表に関する注記)

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。

この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりです。

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
当座貸越極度額	1,115,000千円	1,115,000千円
借入実行残高	115,000	329,502
差引額	1,000,000	785,497